QC検定2級。実践編。重要用語聞き流し

プロダクトアウト。

生産者志向のことで、会社の方針や作りたいモノ、売りたいモノを基準に商品開発を行うことを指す。良いものであれば売れるという考え方で、自社の技術や強みを生かした商品展開をおこなう。

マーケットイン。

消費者志向のことで、お客様ニーズを把握し、それを満たす製品やサービスを提供していくことを指す。顧客が望むモノ、すなわち売れるモノをつくり販売するという考え方で、顧客のニーズから商品開発をおこなう。

品質優先。

売り上げ増大、原価低減、能率向上よりも品質向上を優先する考え方、行動のこと。

後工程はお客様。

自工程の仕事の良し悪しは、後工程の評価につながることとなり、この評価指標は満足度という指標で測れることから、後工程をお客様と捉えて仕事をするという考え方のこと。

プロセス重視。

結果ではなく、プロセス、工程を重視する考え方のこと。これにより、再現性を得ることができる。

さんげん主義。

現場、現物、現実のみっつのげんを重視し、机上ではなく、実際に現場で現物を観察して、現実を認識した上で、問題の解決を図らなければならないという考え方のこと。

ごゲン主義。

現場、現物、現実のさんげん主義に、原理、原則を加えた考え方のこと。

さんげん主義で問題に向かう気持ちを持ち、原理から外れていることがらは無いか、原則と異なることが発生していないか、という視点で物事を捉えること。

KKD。

勘、経験、度胸のこと。

事実に基づく管理。

過去の経験や勘、度胸、KKDではなく、データをもとに客観的事実を整理し、その情報に基づいて意思決定するという考え方。

重点指向。

品質などの改善活動で、優先順位を明確にし、効果が大きいものにターゲットを絞って対応すること。

デザインレビュー、DR。

開発の手戻りを未然防止するために実施する設計審議会のこと。フェーズを分けて繰り返し実施し、商品コンセプトと採用技術の整合性、設計方針、設計根拠の妥当性、重要部品の課題対応策、検証法の妥当性、設計検証モデルによる設計品質獲得を段階的に確認する。

人間性尊重。

働く人間がよりよい人生を歩むにはどうあるべきか、職場をベースにして自己実現をしていくのかということ。その元となるのは健康であり、仕事に生きがいや喜びを感じることができる職場環境を整備することが大切だという考え方。

継続的改善。

PDCAサイクルを回すことで実現することができるもので、絶え間なく計画と実行、検証、改善を繰り返すことで品質を向上させていくことができるという枠組み。

ごM。

工場を管理する上で欠かせないいつつの要素、人、まん、機械、ましーん、材料、まてりある、方法、めそっど、計測、メジャーメントのこと。製品の品質を確保するために、ごMによる日常管理が重要である。

えふめあ。フェイリュアーモードアンドエフェクツアナリシス。

製品や製造プロセスに潜在する故障モードを事前に洗い出し、影響を分析評価したうえで対策を講じる解析手法のこと。なお、故障モードとは、故障を引き起こす不具合、原因を指し、故障そのものを意味するわけではない。

TCO。トータルコストオブオーナーシップ。

総保有コストのこと。製品の導入、運用、廃棄にいたるまでの全てのコストを指す。

TQC。トータルクオリティーコントロール、総合的品質管理。

CWQC、カンパニーワイドクオリティーコントロール、全社的品質管理とも呼ばれる。

主に現場の従業員一人ひとりが主体的に品質管理を行う活動である。

じすでは、品質管理を効果的に実施するためには、市場の調査、研究、開発、製品の企画、設計、生産準備、購買・外注、製造、検査、販売及びアフターサービス並びに財務、人事、教育など企業活動の全段階にわたり、経営者を始め管理者、監督者、作業者など企業の全員の参加と協力が必要である。と定義されており、全員で品質管理を実践するという管理手法のこと。

TQM。トータルクオリティーマネージメント、総合的品質マネジメント。

TQCで唱えられた、組織全体として統一した品質管理目標への取り組みを経営戦略へ適用したもの。TQMの特徴は、企業のトップが制定した経営戦略を、ブレイクダウンして品質目標、顧客満足度目標まで落とし込んで全社的に展開することであり、経営陣がトップダウンの形で品質管理を行うことである。

トレーサビリティー。

その製品がいつ、どこで、だれによって作られたのかを明らかにすべく、原材料の調達から生産、そして消費または廃棄まで追跡可能な状態にすること。

あいえすおー9001。

組織、会社、各部門ほかが提供をおこなう商品やサービスの品質向上を目的とした品質マネジメントシステム規格、QMSのこと。

要求事項は以下の通り。。

1。組織の状況。。2。リーダーシップ。。3。計画。。4。支援。。5。運用。。6。パフォーマンス評価。。7。改善

品質マネジメントのなな原則。

あいえすおー9000の序文で提示されている品質マネジメントの基本的な考え方のこと。構築したあいえすおーシステムが有効に機能するためのなな原則となっている。また、じすきゅー9000、2015、品質マネジメントシステム、基本及び用語でも記載されている。。

1。顧客重視。。2。リーダーシップ。。3。人々の積極的参加。。4。プロセスアプローチ。。

5。改善。。6。客観的事実に基づく意思決定。。7。関係性管理

ウォルターアンドルーシューハート。

アメリカ合衆国の物理学者、技術者、統計学者。統計的品質管理の父とも呼ばれる。管理図の基本と統計的管理状態の概念を生み出した人物。

ウィリアムエドワーズデミング。

アメリカ合衆国の統計学者、著述家、講演者、コンサルタント。設計、デザイン、生産、プロデュース、販売、セル、再設計、リデザインのデミングサイクルの生みの親。

ジョセフエムジュラン。

品質管理に対する多大な貢献で世界的に認められているアメリカの経営コンサルタント。TQM、トータルクオリティーマネージメント、総合的品質マネジメントのだいいちにんしゃとして知られている。

要求品質。

顧客、あるいは組織によって求められる製品やサービスの品質に関するニーズまたは期待のこと。

使用品質。

製品が顧客の手にわたって、実際に顧客が使用したときに感じる品質のこと。

品質要素。

展開された個々の性質、性能のこと。具体的には、機能性、性能、意匠性、互換性、経済性、入手可能性、信頼性、安全性に分類される。

品質特性。

製品の性質の違いを定量的に評価するための測定項目のこと。

鉛筆の品質特性を例にすると、芯の硬さ、消しやすさ、磨耗性などとなる。

信頼性。

じすぜっと8115、2019に、アイテムが与えられた条件で規定の期間中、要求された機能を果たすことができる性質と定義されている。

信頼度。

じすぜっと8115、2019に、アイテムが与えられた期間与えられた条件下で機能を発揮する確率と定義されている。

企画品質。

企画段階の品質のこと。顧客の声を聞いて、どんな製品をつくるか考案をしたものの品質。要求品質に対する品質目標。

設計品質、ねらいの品質。

企画品質を受け、その企画を実現するためには、どのような設計にするのかを考え、設計図、仕様書などに落とし込んだものの品質のこと。品質特性に対する品質目標。

製造品質、できばえの品質。

設計図を見ながら具体的に製造をしたものの品質のこと。製造した製品の実際の品質。

使用品質。

製品が顧客の手にわたって、実際に顧客が使用したときに感じる品質のこと。

かのうモデル、顧客満足モデル。

顧客満足度に影響を与える製品やサービスの品質要素を分類し、それぞれの特徴を記述したモデル。1980年代に東京理科大学教授であったかのうのりあきによって提唱された。

一元的品質。

充足されていれば満足を引き起こし、不充足であれば不満を引き起こす品質要素のこと。自動車で例えるなら、燃費が良いという品質がこれに該当する。

魅力的品質。

充足されていれば満足を引き起こすが、不充足であっても仕方ないと受け取られる品質要素のこと。自動車で例えるなら、車内にワイファイが搭載されているという品質がこれに該当する。

当たり前品質。

充足されていても当たり前と受け取られるが、不充足であれば不満を引き起こす品質要素のこと。自動車で例えるなら、エンジンがかかるという品質がこれに該当する。

無関心品質。

充足されていても不充足であっても満足度には影響を与えない品質要素のこと。

逆品質

充足されていれば不満を引き起こし、不充足であれば満足を引き起こす品質要素のこと。

管理項目。

じすきゅー9023、2018では、目標の達成を管理するために、評価尺度として選定した項目と定義されている。管理項目は、結果系と要因系に区別される。

結果系。

製品の出来栄えのことであり、管理点という。

要因系。

所定の出来栄えにするためにチェックすべきことであり、点検点という。

管理点、点検点マトリクスの例を示します。

ある回転する工具の管理点、点検点を考えた場合、管理点は寸法、深さ、外観など。点検点は、型番、摩耗、径、速度などを設定することができ、まるばつでチェックすることがてきます。

管理水準。

じすきゅー9023、2018では、安定した又は計画どおりの、プロセスの状態を表すあたいまたは範囲と定義されている。管理水準と実際のあたいとを比較することでプロセスが安定した状態、又は計画どおりの状態にあるかどうかを判定できる。

SDCA。

スタンダード、標準化、ドゥー、実行、チェック、評価、アクト、措置のよん段階を繰り返すことによって、日常管理を行う手法のこと。

PDCA。

プラン、計画、ドゥー、実行、チェック、評価、アクト、見直し、改善のよん段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する手法のこと。各種のマネジメント手法に取り入れられている。

問題解決型QCストーリー。

仮説を設定し、データの収集、検証に基づいて目標を設定し、目標と現状とのギャップを問題として捉え、その真の原因を追究することを重視する。

課題達成型QCストーリー。

新しい方策、手段を追及して新しい方法を創出することを重視する。新規業務への対応や現状打破を行いたい時に利用する。

開発計画書。

新製品開発を行うにあたり作成するもの。目標や日程、責任、権限などを明確にする。

コンカレント開発。

設計、製造、調達、その他のプロセスを同時に進めること。新製品開発を効率的に進めることができる。

品質保証。

自社製品が既定の品質を維持しているかを確認し、納品後も顧客に安心や満足を保証するための体系的な活動。

要求品質。

製品に対する要求事項における、市場、顧客が求めている顕在的、潜在的な品質の総称。

品質機能展開、QFD、クオリティーファンクションディプロイメント。

市場からの要求品質を品質特性に変換し、設計品質を定め、品質展開、技術展開、コスト展開、信頼性展開へと二元表を用いて展開していくこと。

要求品質展開表。

要求品質を親和図法などによりグルーピングし、階層的に示した表のこと。